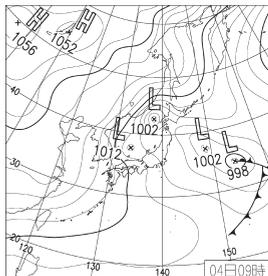


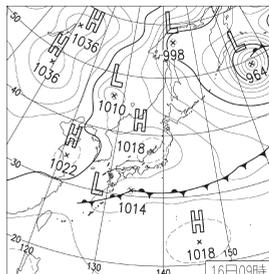
# 日々の天気図

— No. 193

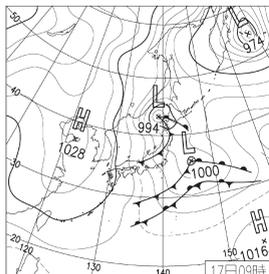
## 2018年2月

- 3～8日、寒気強く日本海側で大雪、福井で37年ぶり積雪140cm超、車約1500台立ち往生、除雪中の死傷者多数、農業用ハウス倒壊も。
- 最深積雪山形県肘折445cm、北海道続加内324cmなど各地史上1位。
- 12～2月、西日本の平均気温の低さ、全国的な寒冬ともに32年ぶり。(気象庁予報部予報課)

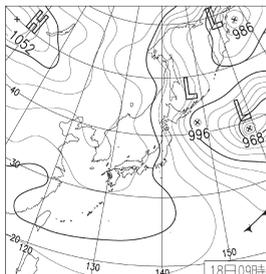




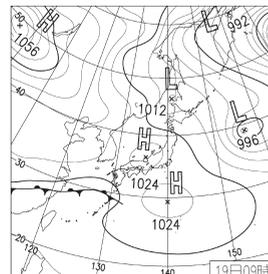
**16日(金)日本の南に前線が停滞**  
午後には日本海にも低気圧が発生。沖縄・奄美を中心に西日本でも所々で雨。沖縄・奄美では最高気温が平年より高く4月中旬～5月上旬並。北日本は曇りや雪。水戸市でウメ開花。



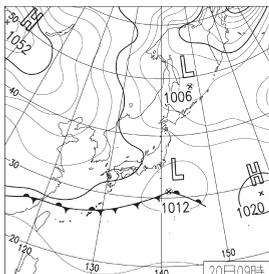
**17日(土)強い冬型の気圧配置へ**  
急速に発達する低気圧が日本海から北海道付近へ進み、北日本を中心に大荒れや大雪。秋田県八森の最大風速25.4m/sは史上1位。日降雪量は福島県楡枝岐65cm、群馬県藤原51cm。



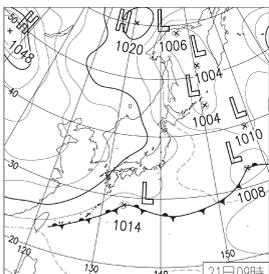
**18日(日)北日本に強い寒気流入**  
西日本は次第に高気圧に覆われ西日本や東海・関東は概ね晴れ、北陸や北日本日本海側では雪でふぶく。秋田県八森で最大瞬間風速31m/s。北海道は全観測点で真冬日。



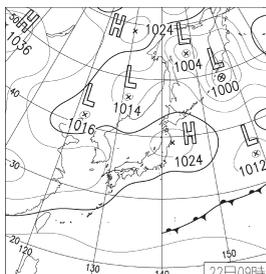
**19日(月)天気下り坂**  
西～東日本は日中晴れた所もあるが日本の南の前線上に低気圧が発生し九州は雨、その他も次第に曇って南岸中心に雨。北陸以北の日本海側は曇りや雪。大分・愛媛・高知県で震度4。



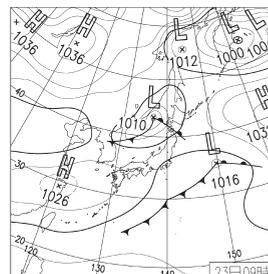
**20日(火)前線は日本の南で南下**  
朝の最低気温は全国的に平年並。日中の最高気温は晴れた西～東日本で3月並、北日本は曇りが多く平年より低い寒い一日。宮崎市・大分市でツバキ開花。佐賀市でウグイス初鳴。



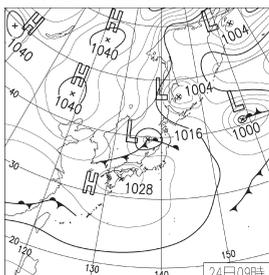
**21日(水)全国的に日照少ない**  
日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪。沖縄付近～日本の南に停滞する前線はゆっくりと南下し、沖縄・奄美～九州で雨。北日本太平洋側は概ね晴れ。



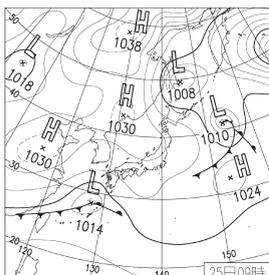
**22日(木)北日本冷え込む**  
高気圧が東北付近を通過。沖縄・奄美や関東は湿った空気により曇りや雨。その他は概ね晴れ。放射冷却の影響もあり岩手県区界の最低気温-22.9℃は低い方からの史上1位。



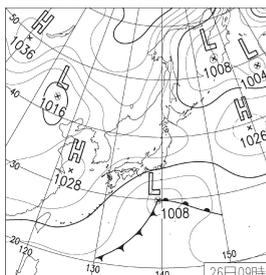
**23日(金)北海道で風強まる**  
低気圧が通過した北海道は降雪が続き前線通過時は非常に強い風も。最大風速北海道本泊28.4m/sで2月1位。西～東日本は晴れたが関東は湿った空気入り昼頃まで曇り寒い一日。



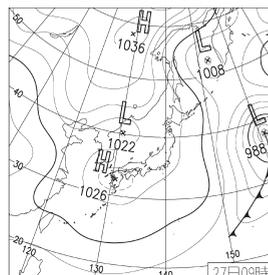
**24日(土)北日本で暴風雪**  
低気圧が発達しながらオホーツク海を進み、日本海の低気圧が東北を通過。北陸・東北と、北海道日本海側で雪や雨。北海道では最大瞬間風速が本泊35m/sなど8地点で2月1位。



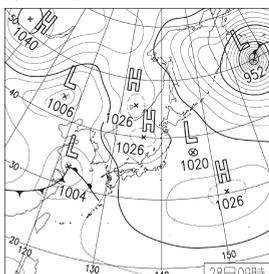
**25日(日)南西諸島で激しい雨**  
沖縄・奄美は低気圧・前線通過時に雨風が強まり鹿児島県喜界島で2月1位の45mm/1h。西～東日本も曇りや雨。最深積雪北海道幌加内324cmは道内史上1位、音威子府281cmも史上1位。



**26日(月)北海道で積雪増える**  
最深積雪は北海道幌糠275cm、美唄167cmで共に史上1位タイ。低気圧が日本の南を東進し西日本太平洋側は所々雨。日中～夜は高気圧に覆われ晴れた所多い。大阪市などウメ開花。



**27日(火)全国的に晴れ続く**  
低気圧が日本海から東北へ進み、北日本は寒気の影響もあり東北中心に雪。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。内陸中心に冷え込み、所々で平年より10℃以上低い最低気温に。

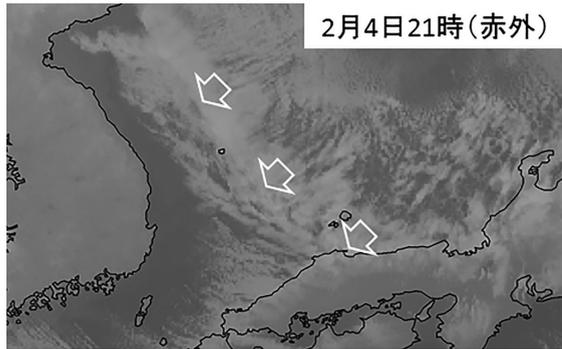


**28日(水)四国と東海で春一番**  
黄海の低気圧が急速に発達・東進し西から雨で雷も。九州北部は大荒れ、夜は東日本も雨。北陸～北日本は晴れて一部で雪。最深積雪宮城県駒ノ湯165cmは史上1位。

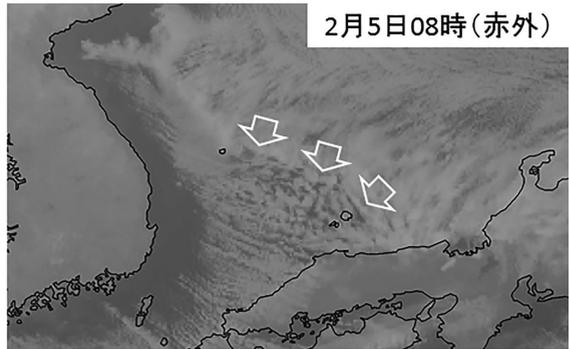


## 今月のひまわり画像—2018年2月

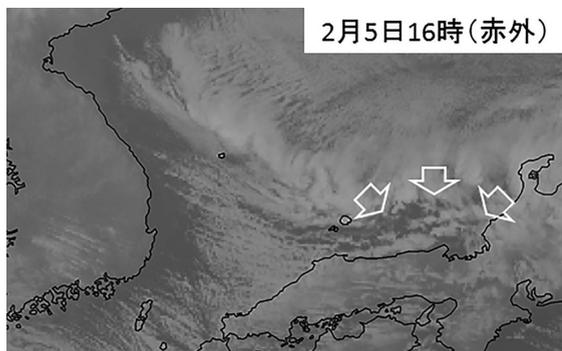
### 福井県の大雪



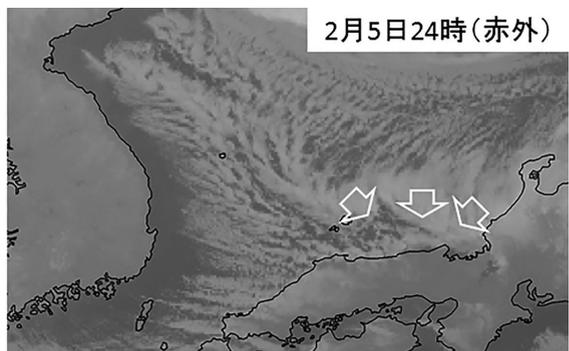
第1図 2018年2月4日21時の赤外画像。



第2図 5日8時の赤外画像（記号は本文参照）。



第3図 5日16時の赤外画像。



第4図 5日24時の赤外画像（記号は本文参照）。

2018年2月5日～8日(日本時間), 500 hPaで $-40^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気が日本付近を通過した。このため、北陸地方を中心に大雪となり、6日に福井地方気象台では降雪の深さの日合計が歴代2位の54 cmとなった。今回はこの大雪の状況を衛星画像で振り返ってみたい。

福井のアメダスによると、降雪の強まりは5日明け方～朝と6日未明～朝の二つのピークがあった。第1図は福井での強い降雪が始まる前の4日21時の赤外画像である。日本海西部には下層風の収束に伴う強い対流雲列(矢印記号の先端付近)があり、その南東端は鳥取県付近に達している。第2図は5日8時の赤外画像である。強い対流雲列は隠岐諸島の北西で北側へ膨らむような動きをみせ(白い矢印)、あたかも対流雲列上に波動が発生しているかのように見える。このとき朝鮮半島北部では500 hPaに正渦度の極大域が出現した。この正渦度極大域は、その後ゆっくりと東へ進

んでいった。第3図は5日16時の赤外画像である。8時に隠岐諸島の北西で発生した対流雲列上に見られる波動は、朝鮮半島北部に出現した500 hPaの正渦度極大域の動きに合わせて、東に移動し、この時刻には、若狭湾から北陸地方に達しようとしている(白い矢印)。この対流雲列上に見られる波動の動きに合わせて、その南東端も若狭湾北部まで北上している。第4図は福井で二回目の降雪の強まりが始まった5日24時の赤外画像である。強い対流雲列の南東端は引き続き若狭湾北部にとどまり続けている。これらのことから、今回の福井県の二つの降雪のピークのうち、6日未明からの降雪は、中層の正渦度の移流の作用により、日本海西部に発生していた対流雲列上の波動が東に移動し、福井県に達したことによりもたらされたものとも考えられる。

(気象庁予報部予報課 野中信英)